

会議録

会議の名称	第7回豊中市環境審議会(第12期)		
開催日時	令和2年(2020年)2月5日(水曜)18:00-20:00		
開催場所	第一庁舎2階大会議室	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	環境部環境政策課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由	—		
出席者	委員	上甫木委員、猪井委員、大久保委員、下田委員、田中委員、花嶋委員、三河委員、藪本委員、熊本委員、廣田委員	
	事務局	河本環境部長、糸井次長兼環境政策課長、安好主幹、山本主幹、濱崎課長補佐、豊田係長、今川主査、水島技能長、川西職員、吉村減量計画課長、鈴木係長、中村公園みどり推進課長、藤原課長補佐、奥田係長	
	その他	(株)総合環境計画	
議題	<p>1. 第3次豊中市環境基本計画の進行管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度「協働の取組みに関する意見交換会」のアンケート結果について ・豊中市環境報告書「とよなかの環境(2018年度評価と今後に向けて)」(案)について <p>2. 令和2年度(2020年度)「協働の取組みに関する意見交換会」のテーマについて</p> <p>3. その他</p>		
資料	<p>資料1-1: 令和元年度協働の取組みに関する意見交換会アンケート結果</p> <p>資料1-2: 豊中市環境報告書「とよなかの環境(2018年度評価と今後に向けて)」(案)</p> <p>資料2-1: 協働の取組みに関する意見交換会の次年度テーマについて(案)</p> <p>資料2-2: 令和2年度(2020年度)「協働の取組みに関する意見交換会」のテーマについて(案)</p> <p>参考資料: 第12期環境審議会名簿</p>		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

○ 事務局

- ・あいさつ
- ・資料の確認

○ 会長

次第に沿って会議を進めていきたいと思います。案件1の一つ目の説明をよろしくお願
いします。

1. 第3次豊中市環境基本計画の進行管理について（令和元年度「協働の取組みに関する意見
交換会」のアンケート結果について）

○ 事務局

資料1-1の説明

○ 委員

推進部会の意見の集約と、事務局の回答についての説明

○ 会長

ご説明について、意見や質問があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○ 委員

委員がおっしゃったことにも関係するのですが、アンケートについて、実施する時期も
ですが、最初に試行実施したときは、フロアの見学者からもアンケートを採ったのですが、
今回は発表や意見交換をした団体しか取っていません。これをどう考えるのかというこ
とが気になっています。

今回見学していたうちの団体のメンバーで、意見を言いたかった人がいたので、きっと
見学した人にも意見を採る機会があると思いますよと言っていたのですが、アンケートを
採らなかったで、その人は意見を出す機会がなかったと思います。採らないなら採らな
いでも良いのですが、フロアの見学者からの意見をどう把握するのか。後からアンケート
を採るのではなく、会場で気付いたことを書いてもらう機会を設けるのか、そこの在り方
を考えていく必要があると思います。

○ 会長

今の意見に対してご意見ございませんか。

○ 委員

一般の参加者からもアンケートを採っていると思っていました。

○ 会長

事務局、前は採ったのに今回しなかったのは、たまたまそうなったということでしょうか。

○ 事務局

当日にアンケートを配布できなかったのが、団体さんと発表に参加していただいた方々を対象に実施しました。次回の開催のときにどうするかは、事務局で検討したいと思います。

○ 会長

そうですね。もっともな話なので、団体の方と一般の参加者には意見を伺うということにしましょう。次回は、審議会でどういうアンケートを採るかということも少し検討できればありがたいと思います。それも踏まえてスケジュールを検討してください。

他はいかがでしょうか。これは来年度の意見交換会にも展開する話なので、今のことを踏まえて、二つ目の議論のところでいろいろと意見を出していただけたらありがたいと思います。よろしいでしょうか。では続いての説明をお願いします。

2. 第3次豊中市環境基本計画の進行管理について（豊中市環境報告書「とよなかの環境（2018年度評価と今後に向けて）」（案））

○ 事務局

資料 1-2 の説明

○ 委員

推進部会の意見の集約と、事務局の回答についての説明

○ 委員

私は交通分野から選出されているのですが、最近、豊中市で交通の取組みがあまりなかったということもあって、公共交通について発言しなくなっていた気がしています。今年から豊中市は交通政策に力を入れていて、西部地区で乗合タクシーの実験や令和4年から東西交通のバスを走らせようということで検討を始めています。ですから、目標2のところに交通の取組みも載せていただきたいと思います。

西部地区の乗合タクシーは昨年の10月に走り始めて、利用者はそれなりですが、箕面市等と比べると認知度はかなり高いです。かなり地域の期待をいただいているところもあるので、できれば環境のほうから、目標2のところで公共交通を利用してくださいと後押しをしていただければと思います。東西バスも年間予算2000万～3000万かける大きい事業ですので、ぜひ支援なり、援護射撃をしていただければと思います。

来年からでも結構ですので、記載いただくことをご検討ください。

○ 会長

その辺り、事務局はいかがでしょうか。

○ 事務局

公共交通の利用促進は環境部でも COOL CHOICE 普及啓発事業という国民運動の取組みで、市有施設において公共交通の利用促進を促すポスターの掲示を行っております。また、公共施設の利用の後押しや支援については、関係課と調整ができずポスターに載せていなかったのも、市の考え方にも含められるか調整したいと思います。

○ 会長

ぜひお願いします。

○ 委員

13 ページ目標4のところに市の考え方がありますが、ゴシック体で強調している部分の最後に、『イベントの実施などを検討します』という言葉が少し気になりました。市民が見たときに、検討だけするのだというイメージを抱きかねないので、『推進します』、『実施

します』などの決意を示すような短い言葉に置き換えていただきたいと思います。

○ 会長

事務局お願いします。

○ 事務局

ご意見をいただいた内容で、表現を調整したいと思います。

○ 会長

説明を聞けばこのゴシックの意味は分かるのですが、今お話を聞いていて、市民の方が見て分かるような表現があるのではないかと思います。昨年は市の考え方のところで、『実施』、『検討』といったマークがいくつかありましたが、今年度のゴシック体部分は、基本的に意見を受けて取り組んでいく内容だということを書ければ分かりやすいのではないのでしょうか。明朝体とゴシック体で勝手に解釈してくださいというのではなく、いわゆる前向きに取り組んでいく内容という旨の記載が必要な気がします。いかがですか、他の委員の方々、事務局いかがですか。

○ 事務局

いろいろと表現を検討しましたが、アイコンになるとどのアイコンが良いのか、分かりやすいのかという悩みもあり、今回は字体を変えるという表現に抑えました。説明をしないと記述として分かりにくくなりますので、なぜゴシック体になっているのか、注意書きとして下に注意書きを検討したいと思います。

○ 委員

先ほど委員から報告書を印刷しないと初めて聞いて、それに驚いています。2年を予定していた進行管理を今年は1年で行ったから、今年だけ予算がないので一時的に印刷しないというのであれば理解できますが、これからずっと印刷しないということなのでしょうか。印刷物としてなかなか読んでもらえないからページ数を減らすとか、19ページに載っているようなイベントも、コラム的になるべく親しんでもらうために盛り込んできたと理解しているのですが、それなら19ページ以降はいらないという話にもなりますし、いろいろな前提が崩れている気がします。

ウェブページは、今まで冊子を手にとってくれた人よりも、さらに関心が高い人しか見えてくれません。その人に向けて作るならば、最低限の分かりやすさだけで良いじゃないかとか、ここの在り方がまた議論になるのではないかと思います。環境面もコストも理解はしますが、環境報告書の役割として良いのかという議論を、審議会でもされていないということが少し気に掛かっています。

もう一つは9ページで、昨年度までの環境報告書では、意見に関する市の考え方の冒頭

に、何人の市民の方から意見が寄せられたのか数値が出ていました。今回は載っていないので、どれぐらいの人がどれぐらいの意見を寄せた結果なのかを載せるべきだと思います。本日の参考資料に、目標別の件数の表が付いていますが、そういう表が付いていると一番分かりやすいと思います。

それから、10 ページからの各目標に対するコメントですが、会長からご指摘のゴシック体と明朝体の違いは、私も同じことを思いました。昨年までは『実施』、『対応』、『検討』など、市で今どういう状態なのかが見て分かっていたのですが、文体では今どういう状態なのかというトーンが分かりません。アイコンを付けるのか、『実施』とだけ文字が入るのか、以前はすごく丁寧にされていたのに、箇条書きで並んでいるのは、以前と比べて後退しているのではないかという印象を持ってしまいます。

市民からの意見も、多いところは四つぐらい抜粋していて、少ないところは二つぐらいで、出た意見の数と採用された意見の数が必ずしも同じではない気がします。みどりに対して意見をたくさん出したのに二つしか載っていない、ごみに対して意見をたくさん出したのに二つしか載っていないとどうしても思ってしまうので、基本は三つずつにするとか、そういう抜粋の仕方もあると思いました。

それから、中身についてどうしても言いたかったことが二つあります。一つは目標 2 のところに熱帯夜の意見が出てきますが、目標 5 の関連指標に熱帯夜があるので、目標 2 ではなく目標 5 ではないでしょうか。

もう一つは要望ですが、目標 4 の市の考え方のところ、『緑化重点地区としている南部地域に対して、より充実した緑化支援制度の』と記載してあります。先月「豊中市南部地域活性化基本計画(素案)」について意見を募集していて、市全体で南部地域をどうしていくかという基本計画が示されました。私たちの団体からもそこに意見を出しましたが、素案にはみどりのことが記載してありませんでした。都市計画マスタープランで記載された緑化よりも後退しているぐらい、みどりのことは記載されていないのです。もちろん環境部として独自に南部にアクセスしていただくのは自由ですが、やはり市全体の計画にきちんとコミットして、基本計画にみどりのことを盛り込まなければなりません。それがあって、初めて個別の施策に書くべきことなので、この報告書に対する意見とは異なりますが、しっかりと調整していただきたいと思います。

○ 会長

委員がおっしゃったことは部会でもいくつか出ています。二つ目の、9 ページに市民意見の詳細を記載するという意見が出ています。資料編ではなく本編に含めると良いという話があったと思うのですが、あえてそうしなかったのだと思いますので、事務局でご検討をお願いします。

熱帯夜に関しては、事務局では当初目標 5 に入れていたのですが、部会で、市の考え方の後半の『ライフスタイルの実践』に重きが置かれているという意見があり、目標 2 に移った経緯があったと思います。委員からご意見をいただきたいと思います。

それから目標 4 の、「豊中市南部地域活性化基本計画(素案)」での意見募集については十分認識していないのですが、南部地域の基本計画というのは都市計画マスタープランでしょうか。

○ 委員

都市経営部が推進している「豊中市南部地域活性化基本計画(素案)」があつて、そこにはみどりのことも環境のこともほとんど記述がありません。環境部で打ち出すのは良いのですが、市全体で打ち出す「豊中市南部地域活性化基本計画(素案)」に書かないと、ここでだけ書いても仕方がないので、この機会に発言させていただきました。

○ 会長

それはぜひそういう方向でお願いします。各関係部局には何か調整が入っていると思いますので、審議会でも意見があつたということを強く言っていただいで、改善していただきたいと思います。

最初の話に戻りまして、冊子体にする必要があるのではないかとということと、市の考え方の表現方法については、他の委員の方の意見も踏まえながら議論したいと思います。その辺りに関していかがでしょうか。

○ 委員

私も冊子にしないのだと驚きました。やはり市民に幅広く見ていただくためには、冊子にして配布や公共施設に置くのがまず大事ではないでしょうか。ホームページに載せても、わざわざ環境のところをクリックし、「とよなかの環境」をクリックし、PDF を見るか疑問です。まずそのことが、委員と同じようにとても驚きました。

言葉遣いについても、冊子で読むのとホームページで見るのとでは全然印象が違います。例えば、「市民からの意見」で、『何々が必要です』とか、『必要があります』と書いてありますが、ここまで市民がきついことを言っているのかと思って、市民意見の集約を見るとやはりそうでもなくて、『何々が良いと思う』とか、『こんなのが良かった』など、割と柔らかい表現でした。目標の 1 から 5 まで全部のページに、『必要があります』と書いてありますが、市民は本当にそこまで強く思っているのでしょうか。取組みについて教えてほしい、情報提供してほしいというのは、市民として切実に感じますが、『必要だ』と言うほどきつく考えているのだろうかということを疑問に感じました。環境審議会が『必要です』というのは分かりますが、市民が『必要です』という強調の仕方をするのでしょうか。『教えてほしいです』、『こういう情報提供を望みます』といった言い方の方が良いと思います。

例えば、市民からの意見が全部ホームページから読めるならまた違うと思いますが、まとめ方やどの意見を選ぶか、どうまとめるかというのは、目に映ったときにだいぶ印象が違うので、もう少し考えたほうが良いと思います。市の考え方についても、字体がどうのこうのという前に、読んでいてこんな言葉の使い方の良いのだろうかという疑問でした。冊子

にするかどうか、感じ方や捉え方が違ってくるので、まずどちらにするのか、もし冊子にするならば、もう少し文言を考えたほうが良いのではないかと感じました。何より冊子を作らないということが少しショックでした。

○ 会長

他の委員の方、お願いします。

○ 委員

冊子を印刷する、しないという話をしているので、僕は少し違う意見を述べたいと思います。冊子を印刷しないというのも、一つの取組みとしてはありだと思います。資料を見ていただくという趣旨から言えば、今はスマートフォンからでも閲覧可能ですので、この存在自体を広報するという方法もあると思います。今まで市の施設に平置きしていたものを、例えばポスターなどの掲示に変えて、QR コードを添付して、ここにアクセスすると「とよなかの環境」という資料が閲覧できますのでご覧ください、というやり方もあると考えています。当然、平置きであるという存在感はメリットだと思いますので、いきなり全部なくすというのも一つですが、ある程度発行部数を削って、例えば、ポスターなどの掲示でホームページに誘導するという二段構えも一つの考え方だと思います。

また、私の団体は SDGs を推奨しているので、その観点からも一つ意見を述べさせていただきます。3 ページの後半の SDGs について、『豊中市総合計画基本計画基本構想の中で…取組みを進めています』そして唐突に、『持続可能な開発目標 SDGs』と書かれています。SDGs を分かっている人であればピンとくるのですが、まだ世間の認知度としてはそれほど高くないと思いますので、これに対する解説が多少なりとも必要だと思います。巻末のほうに用語解説が用意されているので、私が見落としていたら申し訳ありませんが、SDGs については特に何も触れられていなかったもので、簡単にでも解説していただくのと、先ほどの発想と同じですが、周知するホームページのアドレスなども記載していただくと分かりやすいと感じました。

○ 会長

非常に貴重な意見をいただいたと思います。

○ 委員

11 ページの目標 2 の「審議会からの意見」のところで、一点目が『プラスチック類を減らす必要があります』ということになっていますが、そんなにごみが悪いのかと疑問に思います。部門別の二酸化炭素の排出量を見ると、合計の排出量が約 131 万トンで、廃棄物部門が約 9 万トンとなっています。廃棄物部門はもともと多い訳ではなくて、確かに増えているのですが、これはごみの組成調査をしてプラスチックの混入割合が上がっているためです。でもクリーンランドの廃プラスチック類比率を見ると、平成 29 年度だけ 28 パー

セントに増えていて、平成 30 年度はまた 24.3 パーセントに落ちています。

もちろん廃プラスチックの上昇率が急だということは本当ですが、全体の 7 パーセントぐらいのごみが、すごく増えたとして一番上に挙げられるのはどうなのでしょう。消費エネルギー全体を減らすことが大切なのに、プラスチックを燃やすのが悪いのだと感覚的に間違っただけで伝わってしまわないだろうかと思います。少なくとも審議会からの意見の 1 番目と 2 番目を入れ替えて、かつ今年一番急激に上昇したのはプラスチックだった、決して総量がすごく多いわけではなく、なぜか今年はこれが多かったというような表記にできないでしょうか。

○ 会長

委員の意見に対して、事務局はいかがでしょうか。

○ 事務局

審議会からの意見は、順番を入れ替えたいと思います。プラスチック類の分析のところはおっしゃるとおりで、この年度の評価としてはそういうところが映っていると思います。プラスチック類を減らしていくというのは、世間でも関心が高いところですので、市民の皆さんにもそこから取組みを進めていってもらうのが啓発しやすいところもあります。プラスチックだけが悪いという取られ方をされて、誤解を招くところもありますが、プラスチック類を減らしていくのは、今後、国の施策でも進めていかなければならないし、温暖化の問題でも、地球環境のためにプラスチック類を減らすという考え方も示されています。少し悪役になっているようなイメージはありますが、市民の方々が取り組みやすいようなシンボリックなもので、ごみも減らす、CO₂も減らすという表現を考えてこういう記載にしました。内容は内部で修正できるかを検討しますので、会長預かりにさせていただきたいと思います。

○ 会長

その辺りはいかがでしょうか。社会的な背景というか、今、かなり問題になっている海洋汚染のようなものを少し入れて、そういうことでプラスチックに結び付けていくという表現をすればどうでしょうか。

○ 委員

やはりメインストリームは家庭での電力使用を減らすことです。家庭部門の排出量が 47 万 6497 トンで、廃棄物部門は約 9 万トンなのに、ここが増えたから悪いと言われると、ちょっと違うという気もします。もちろん、できることからやっていきたいと思います。これは正しいと思いますが、これを見ると、やはり一番悪いのはプラスチックだというイメージが伝わってしまうので、もう少し補足を入れて、一番悪くはないけれども今年は少し増えているので、ここをもう少し減らしましょうという書きの方が良いと思います。

○ 会長

では、その辺りは事務局の方でご検討いただきたいと思います。委員、その下の熱帯夜の話について、もう一度ご意見をお聞かせください。

○ 委員

市民からの意見の4番目、熱帯夜が年々多くなっておりというご意見は、実は最初は目標5のところがありました。でも、私が熱帯夜はやはり温室効果ガスの話とひとくくりにしたほうが良いのではないかと言ったので、ここに来ました。もし他のご意見があれば、お聞かせいただきたいと思います。

○ 会長

個人的にはどちらでも良いと思います。

○ 委員

熱帯夜の原因は二つあって、一つは都市化が進んでコンクリートが増え、それが熱をためる。これは温室効果ガスと関係がないので、緑化と一緒にしたほうが良いと思います。もう一つは人工排熱で、これはエネルギーを使うと出るもので、そういう意味では目標2でも目標5でもどちらにあっても良いと思いますが、ここに入れて地球温暖化と熱帯夜が一緒だと捉えられてしまうと、それは少し違います。感覚的に考えると、さっきの理由でどちらでも良いのですが、ここに入れることで温暖化の話と一緒にされてしまうのもどうかという気はしますが、間違いではないです。

○ 会長

ここをいろいろ考えていても仕方がないので、目標5に熱帯夜の指標が入っていますので、それとの関わりを考えて、目標5の方に記載するというところでよろしいでしょうか。では話を元に戻して、先ほどの非常に大事な点について、印刷体にするかという話で、市民意見や市の考え方、表記についてご意見をお願いします。

○ 委員

部会でも意見が出ていて、やはり印刷体にしないのであれば、環境情報の提供の質が落ちないよう、あるいはそれがもっと進むように別の方法を考えて、あくまでもそれとセットであれば、印刷体にしないこともあり得るというのが前提だと思っています。一つは、先ほど委員がおっしゃったような形で、ネットにアクセスしにくい方に対しても、何らかの形でそれを促進するようなものも必要だと思います。

典型的な例があります。8ページの目標5に環境基準達成状況が出ていて、市民意見の『環境基準は国の規制頼みではないか』という意見も、航空機騒音の話をしているのだと

思います。例えば、水質の詳細な環境基準達成状況を見ると、中間報告も印刷物だと非常に小さくてほとんど見えないのですが、基本的に生活環境項目の話しか書いてありません。次に資料編で見るとどうなっているかという、さらに詳しいことが書いてあるのかと思うと、まず豊中の水質の環境基準がなんであるか書かれていて、ここを見ても分かりません。揚げ句の果てには、BODの測定地点の値が載っているだけで、水質の環境基準はBODしかないのかという誤解を与えかねないような悲惨な内容になっています。

市民が頑張ってどこかに載っていないか探そうとすると、豊中市のホームページの環境保全のページをクリックしてたどり着いた方は、そこにデータが載っているということがやっと分かります。ここで、生活環境項目以外にも健康項目があるとか、生活環境項目はBODだけではないということがようやく分かる仕組みになっているので、これはとてもじゃないけれど市民は到達できないと思います。もっと速達性のある形でリンクを貼らないと、環境情報の提供が劣化したとしか判断できなくなるので、ぜひ工夫をしていただきたいと思います。大気汚染のほうは、ホームページ見ると外部リンクにリンクを貼っているものもありますが、少なくとも最低限きちんとリンクして、必要なデータを資料編か、直接的なものをホームページで出すとか、とにかく工夫をお願いしたいと思います。

○ 会長

他はいかがでしょうか。今までのお話でいくと、やはり市民の方いかに情報を伝えるのかということで、単にそのままホームページに報告書を出すだけでは問題だというのが一番大きいと思います。先ほど委員から非常に良い提案をいただきましたが、委員がおっしゃったこととも関わるのですが、広報のポスターなどで、基本計画を策定しています、ここを見るとホームページに行けます、関連する情報はこういうところに載っていますというぐらいのものをまず作る。それから全く冊子体がないという状態はいかがなものかと思うので、取りあえず移行の段階として、市民の方がたくさん集まるような所や主要な団体などには、できれば数を限ってスリムになった冊子体を配布することが必要だと思います。事務局はいかがでしょうか。

○ 事務局

冊子の印刷ですが、全庁的な取組みとして対応していますのでご理解いただきたいと思います。ただし市政情報コーナーでは、印刷物を配架する場所を設けているので、スマートフォンやパソコンでホームページを見られない方は、このような場所で見ただけのように配置する予定です。

情報を取る手段としてQRコードを活用したらどうかというご意見は、非常に良いアイデアだと思います。今年度は市民委員を募集する機会がありますので、来年度以降はさまざまな機会を設けてQRコード等で環境報告書にリンクして見ていただけるような工夫をしていきたいと思います。今年度は2月の中旬ぐらいから市民委員の募集を始める予定なので、募集のところにも環境報告書を見ていただけるようなQRコード等が貼れるかを検

討したいと思っています。

○ 会長

今回の、この基本計画の広報のポスターは作れるのですか。

○ 事務局

今のところ、基本計画を公表したというポスターを作る検討はしていませんが、市民委員を募集するちらしポスターを市の公共施設に貼りますので、そこに QR コード等を貼るか検討したいと思います。

情報の記述内のリンクは、細かく見て分かるようなところは工夫したいと思います。

○ 会長

委員、いかがですか。

○ 委員

今の 2 点の議論がゼロ回答だということはよく分かりました。全庁的な対応だから、特に環境なのだからやめなさい、冊子は駄目ですと、今おっしゃったということですね。審議会でいくら言っても改善する気はありませんということだと理解しました。

○ 事務局

以前は印刷発注した冊子を何部も作って保管し、何かのときには配るという形をとっていました。冊子を作らないというのは、常時印刷発注した冊子を作っているのではなく、会長がおっしゃったように、何かのイベントや PR をするときには、会場にパソコンを持って見せに行くのかなど、いろいろな電子媒体も考えてはいますが、必要に応じて簡易に印刷した形のものをお配りすることは考える必要があるとは思っています。ただ以前のように、製本したものを積んで持っておくということはしないというイメージで捉えていただけたらと思います。

○ 委員

先ほどの回答と今の回答は全然違うと思います。別にきれいな冊子を出してほしいのではないので、数が少なくとも必要なときに印刷して配ったり、いくつかの団体に配ることなら、やはり議論はまず冊子が前提だと思います。1 部も刷らないというなら、先ほどから議論をしているように、そもそも冊子の形態から始まっているので、そこは全然違うと思います。将来的には分かりませんが、委員がおっしゃったとおり、情報の質が維持されるまでの一定期間、簡易印刷した冊子の配布を併用するならば、一定の理解はできるという気がします。イベントのときに配るとか、一定のものを併用するという運用を、今回も年度末のタイミングでしていただきたいと思います。

○ 会長

関連して意見はございますか。基本的には事務局の発言の、一定併用を考えるとという理解で良いでしょうか。

○ 事務局

今までのように、作ったものを皆さんにお配りするような形を取ろうと思っていないのは事実です。必要なときにこういう冊子があることで、より効果的に PR やご説明ができるのであれば、そういうものも活用していくというイメージで捉えていただけたらと思います。

○ 委員

関連してですが、印刷したものとネット上にあるもので、文書の保管期限や公表期限は変わるのでしょうか。

○ 事務局

ホームページに掲げているものは、過去のものもバックナンバーとして残していくことになります。ただ、ホームページ上に残せる期限がある程度決まっていて、無限に残せるわけではないので、電子媒体のほうは5年程度だったと思いますが、そのぐらいでなくなっていくと思います。その場合、もし過去のものが必要ならば、基本データは残っていますので、そのときはこういう簡単な冊子になるかもしれません。

○ 委員

現在、冊子の状態のものはどのように保管されていて、それが PDF になったときにどう変わってしまうのかということをお伺いしたかったのですが。

○ 事務局

部数はある程度ありますが、もしこれがなくなってしまうと、同等のものは難しいです。どこまでのものを求めているのかですが、これのデータがありますので、CD に焼くのか、そこは分かりませんが、データでお渡しするのは可能かもしれません。

○ 委員

何年保存といった、公文書管理の期限を聞かれているのだと思います。

○ 事務局

期限はないので、ものがある限りは見せていけますし、データとして蓄積している形になります。

○ 委員

印刷物と電子媒体とで変わってしまうのなら、それも検討しなければいけないと思いますが、特に規定がなくて変わらないのであれば、急にどうしようというわけではありません。ただこういう記録は、10年後、20年後に、昔はどうだったのだろうかと振り返るときに大切なものだと思うので、別途、何か残していく手段を考えていく必要があると思いました。

○ 会長

今の話はご意見ということでお伺いしたいと思います。今回特に議論しなければいけないのは、目標1から5の市の考え方の辺りですが、書かれている内容について、これだけは少し考えたほうが良いというご意見があればお伺いします。表現についてはこれまでと少し違って、いわゆる「実施します」とか、「検討します」とか、そういう考え方に対するクライテリアが整理されていないということで、やや後退しているというご意見だったと思いますが、その辺りについてはいかがでしょうか。

○ 委員

前回の推進部会の時に申し上げましたが、ここで家庭のエネルギー消費量が減っているのは多分、データが出ていないだけの話で、全国レベルでいうと、2015年から2017年くらいはほとんど横ばいになっています。なのでこれを書くのが良いのかどうかは、少し気にはなります。おそらく、2016年から2017年のところで自由化して、非開示供給者に流れた需要家のデータが拾えなくなった年なので、前回の推進部会で、データの信頼度に問題があるというようなことを一言入れたらどうでしょうかという話が出たと思うのですが、それについてはいかがでしょうか。

○ 事務局

データの信頼度ですが、豊中市で50社程度からデータを取るようにしています。何社かから回答はできないというお返事をいただいています。市としては一部の事業者に矢が向くような表現はできないので、記載しませんでした。

○ 委員

電力販売量は関西エリアで特に大きなシェアのある新電力事業者が出してくれないので問題になっています。他の町でも、「家庭部門の電力消費量が大幅に減りました。皆さんの努力のおかげです」と全く同じことが書いてあるのですが、それも減っているわけではない可能性が高いです。これは全国的な問題なので、これをどうしたら良いのか大阪府のほうでも検討すると言われていますが、少し気になるところではあります。2011年以降の2、3年は劇的に減っていますが、その後、横ばいというのが全国的に言われている状況な

ので、継続的に減らす努力をするために、やはりなかなか減らないと、そのニュアンスを伝えたいという気はします。

○ 会長

事務局、いかがですか。

○ 事務局

表現を、審議会からの意見に記載するのか、市の考えに記載するのか悩ましいところもありますので持ち帰り会長と相談したいと思います。

○ 委員

そうですね。環境審議会評価のところ、「目標に向かっておおむね順調に進んでいます」の前に、「データの信頼性については引き続き検討の必要はあるものの」くらいを入れていただけると良いと思います。

○ 会長

他、ご意見いかがでしょうか。

○ 委員

10 ページからの目標 1 から 5 のところですが、私も先ほどの委員の、「必要です」としてしまっている文書を原文に変える意見に賛成です。参考資料に書かれている市民の言葉を、できるだけそのまま転記していただくことが大事だと思います。10 ページ以降の市民からの意見は、抜粋という表記も付けるべきだと思います。

それから、目標 1 は上の六つの意見に対して下の考え方が四つで、どの意見がどれに対応しているのか、特に目標 1 は読み取りにくいです。目標 2 も数が合っていないが、大体これがこれにつながるだろうということが分かります。10 ページですと、「地域とのハブ機能を持った施設と情報共有すること」、これは公民館のことなのか、環境交流センターのことを言っているのか、私は全然意味が理解できませんでした。あと、最後の「とよなか市民環境会議への取組みを強化していきます」というのは、どの意見に対する回答なのか全然分からなくて、しかも「信頼関係が必要であることが」、何の信頼関係、どこを受けているのか全然分かりませんでした。前は一問一答だったので、何に対して何を受けているか分かったのですが、これも上と下を線で結ぶように、どれがどれに答えているのか分かるようにしないと、読むのも困難になってしまいます。なるべくそこが分かるような答え方をするほうが良いと思います。できれば点を、審議会からの意見丸 1 から市民の意見丸 6 にして、下の答えのところに丸 1 と丸 2 と付けるなど、上の 1 と下の 1 を対応させても良いと思います。そこの読みやすさも考えていただけたら良いと思います。

○ 委員

印刷する場合には量を減らして印刷するという話でしたが、印刷は特別のときだけということであればむしろ、情報を出しても、データ量が多い少ないはそれほど大きな要素ではなくなるので、足せるところはできるだけ足したほうが良いと思います。

先ほどの委員のお話で出てきたようなデータの信頼性については、なぜデータが信頼できるのかできないのか分からない、という話になります。特定の事業者名を出さないとしても、情報を出しているところと出していないところがあるのも事実で、そういう環境への取組みや情報提供の方法は市場で評価されるのがトレンドなので、客観的な事実に関わることとしてきちんと記載したほうが良いと思います。

それから、これもデータの提供の仕方の問題ですが、新しくデータが分かったときや訂正があった場合にも、ネット上ならどんどん訂正できる状況にあると思いますので、新しいものはなるべく更新する。豊中市全体で印刷物を減らしていくなればイベント情報を、ソーシャルメディア等を使って発信したり、あるいはアジェンダさんを通じて発信できるような支援をしたりするなどの取組みをする。資源の使い方を変えるという趣旨だと思いますので、環境情報提供でこういうところに資源を重点的に使っていきますというお話があると非常に良いと思います。

○ 会長

今のご意見は、最後の第3章は必ずしも必要ないかもしれないということですね。第3章も『その他』は変ですね。

○ 委員

大体このような年間行事があるという雰囲気は分かります。でも市民が参加しようと思うと、本当はいつあるかのほうが重要です。タイトル名の『その他』はおかしいです。

○ 会長

タイトルがおかしいと思って見ていました。これを開いた方に、実際に参加してほしいという意図があると思いますので、イベント情報を載せる意味があると思います。いろいろ意見をいただきましたが、市の考え方のところは、明朝とゴシックで、やや積極的に次の年度に取り組んでいこうという色合いが出ているということで、今回は基本的にこのような方向でよろしいでしょうか。やはり前回のようにアイコンできっちりと分けるほうが良いのか、その辺りについて少し意見をいただければと思います。

考え方の表記について、原案では前回までのものから今回このように変えています、事務局から皆さんのご理解が得られるような説明はあるでしょうか。

○ 事務局

実施している、検討しているといった回答についての表現は分かりやすかったかもしれ

ませんが、事務局としては、重点的に取り組むところと次の予算案、次年度の主な事業がリンクしていることを表現したいと考えました。その説明がないので分かりにくいと言われるとそうなのですが、市の考え方の太字のところを重点的に取り込み、それが予算に反映して、予算の内容にも記載があるという関連を考え、こういう記載にしています。それが分かるような説明はできていると思っています。

○ 会長

今回はこういう考え方でよろしいでしょうか。意見に対する考え方の対応関係については、もう少し分かりやすく再検討するというので、私のほうに預らせていただきたいと思います。時間の関係もありますので、報告書のほうはこういう形で進めてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

次の案件の説明をお願いします。

3. 令和2年度（2020年度）「協働の取組みに関する意見交換会」のテーマについて

○ 事務局

資料 2-1、2-2 の説明

○ 委員

推進部会の意見の集約と、事務局の回答についての説明

○ 委員

資料 2-2 でアジェンダ 21 が『協力』と書いてありますが、私は事前にこの資料を見ずに、いきなり審議会の資料を見ているので言いたいことがたくさんあります。いろいろある中で、一番おかしいと思うのがテーマのタイトルです。

『地域と育む生物多様性』とありますが、もともと生物多様性という言い方は、文脈としては生物多様性が失われつつあるという使い方が多く、特に豊中のような都市部では生物の多様性が失われているのが現状です。『育む』という表現ですと、それを今から育てて積み立てていくように感じとれます。『友情を育む』とか、『愛情を育む』のように、もともと関係がなかったものを、少し時間をかけて作り上げていくようなイメージが、『育む』という言葉にはあるような気がします。そうではなく、今まであったものをいかに保全していくか、推進していくかという意味で生物多様性を捉えるべきです。『地域と育む』という言葉は、活動している者たちからすると、そのきれいな言い回しは生物多様性を全然分かっていないと取られかねないフレーズです。まずタイトルは絶対に変えるべきだと思います。

それから、個別の参加団体の考え方もいろいろあると思いますが、事務局が提案した中で言うと、学校が二つもあるのはどうなのでしょう。いろいろな地域で活動している団体が山ほどある中から四つ選ぶとして、そのうち二つが学校になってしまうのは、学校の種類が違うといえどいかななものかと思います。あと先ほど委員がおっしゃったように、いろいろな生物多様性の捉え方があって良いと思いますが、ここに列挙されている中には、生物多様性としては間違っているのではないかと噂されている団体も混ざっています。そこはしっかり精査をしていただきたいと思います。

○ 会長

他はいかがでしょうか。この内容等についてはまだ具体的な検討の場でいろいろと意見を出していただければと思います。特になければ、『地域と育む』という言葉に込めた意図について、少し補足説明をお願いできますか。

○ 事務局

意図としましては、地域の資源を活用する、地域の方々がその資源を共に使う、自然環境についても、里山のように人が手を入れなければならない部分があるので、そういう意

味で人と人との関係が育まれるとか、それで自然もまた育まれるようなイメージを持ってこのようなネーミングにしました。委員がおっしゃったように、専門的な方から見ると誤解を招くところがあるということなので、地域にある資源を活用しているというニュアンスの表現をしたいと思っているのですが、その辺りのアドバイスをいただけるとありがたいと思います。

○ 委員

豊中は都市部なので、国立公園でいうような生物多様性とは全然意味が違うと思います。今回取り上げるどの事例においても、地域で活動している人が協働を進める中で、どういう望ましい環境をめざすのか。豊中の望む生物多様性とはどの辺にあるのか。例えばホテルを再生したいとして、ホテルをこういうところまで維持したいという思いがあるならば、どこをめざすのかということ、協働を通じて議論すると良いと思います。地域が育むというよりは、豊中における生物多様性の在り方を考えるような趣旨のテーマのほうが適切ではないかと考えます。

○ 会長

委員、みどりや自然関係の活動をいろいろと活動されていますが、そういう目から見て生物多様性を捉えるときに、何か良い切り口はありますか。

○ 委員

既に一度、都市化によって豊中の自然がほとんどなくなってしまっているという位置付けの中で、回復するような取組みを推進していくにはどうあるべきかについて、議論していきたいと思います。みどりの中では、私は支援と、園芸のように人為的に作るものの両方をしていきますので、多様性の位置付けの中で、多少、自然と相反する部分もあります。委員がおっしゃるような、どういうメンバーがふさわしいのかも含めて、生物多様性という目的を達成するためにはどうあるべきか、少し議論をしたほうが良いという気はします。

○ 会長

今のお二人からのご意見は、非常に大切な視点だと思います。都市化し、いろいろなレベルの捉え方ができる中で、原生自然的なものは、おそらくありません。例えば、ビオトープにも非常に自然度が高いものからそうではないものまでいろいろありますが、部屋の片隅に張ったクモの巣も一つのビオトープだと言う人もいます。極端に言うところまであるのです。

ですから、私自身は、いわゆる純粋な生態系を再生するという意味だけではなさそうな気がしています。自然を回復すると同時に、その自然が都市住民にとってどういうメリットというか、そこからサービスを得られるのか。それは自然そのものからのサービスもあるだろうし、それを守っているという活動の喜びもあると思います。そこはこの場でじっ

くりと、いろいろ議論すれば良いと思います。この機会になぜ、生物多様性が大事なのかを住民に分かってもらう。逆に言うと、活動している人がどれだけ市民にとってのメリットを考えて活動しているのかを考えてもらうことも必要ではないでしょうか。自然を回復すれば目的が達成されたというのでは、もったいないですね。非常に大事な税金を投入して緑地保全、再生をする。その場所はやはりいろいろな人が活用し、そこからいろいろな恵みを得る、そんな場でありたいと思います。

私は『地域と育む』を変えても良いのですが、事務局が言った意味合いとしてはそういうことだと思います。これからの豊中での生物多様性の在り方を考える上で、市民の関わりを抜きにしては考えられないので、それなら、市民にとってのメリットというか、そこからいろいろな恵みを感じられるようなことを考えるのが非常に大事なのではないのでしょうか。個人的な意見ですがそういう気がします。

他はいかがですか。テーマを特にこの場で確定する必要はありますか。

○ 事務局

テーマの表現は調整したいと思いますが、生物多様性で良いと認めていただけるのであれば、今後、先に進められると思います。

○ 会長

分かりました。生物多様性をテーマにすることに異論はないと思います。豊中での生物多様性の在り方というのを、活動している人と市民がきちんと考える機会を持つことによって取組みが広がっていく、そんな基本的な方向を持ちながら検討を進めていただければと思います。

何かこれだけは言っておきたいということがあれば、お願いしたいと思います。よろしいでしょうか。これから事務局のほうでコーディネーターも含めてスケジュールを検討して、その内容はまた、実施前に審議会があるのでしょうか。そこにはもうかけられないですか。

○ 事務局

本日で審議会の委員の皆さまは任期が終わることになります。6月頃に、新たな第13期の委員の方になりますが、そこに意見交換会の実施が間に合うかどうか分かりません。コーディネーターの先生の都合とも調整して、審議会の後に意見交換会ができればもう一度ご確認いただけたと思いますが、タイミングが合わなければ、皆さまには情報提供という形でお知らせします。その上で、来期の第1回の審議会で、その様子を確認していただくというスケジュールになるかもしれません。

○ 会長

審議会は開催できませんが、皆さんには経過報告を差し上げて意見をいただくという形

で、ぜひ進めていただければと思います。

○ 委員

そのときには、冒頭の資料 1-1 にあったアンケートも、事前に共有されるということでもよろしいでしょうか。

○ 会長

そうですね。それも併せて皆さんに情報提供して、意見をいただきたいと思います。来年度のテーマについては、基本的な生物多様性を行うということと、審議会の開催は難しいようなので、皆さんに意見を伺うという形で進めたいと思います。

○ 委員

今までのテーマと参加団体についてしっかり覚えているわけではありませんが、ヒメボタルとか、刀根山高校とか、大阪大学については団体が違うのかもしれませんが、同じ人たちが出てきているような雰囲気があります。よく知らない外から見た人に、そのように見えてしまうだけかもしれませんが、もちろん、前に来ていただいた方にまた参加していただくのは良いことですが、なるべく市内のいろいろな団体の方にお話をさせていただいたほうが良いので、その対象はできれば重ならないほうが良いと思います。

○ 会長

今の意見も含めてご検討をお願いしたいと思います。では、他になれば議論は終わりにしたいと思います。最後、事務局からお願いします。

4. その他

○ 事務局

- ・地球温暖化防止イベントの紹介
- ・環境審議会の案内
- ・挨拶

以上